

第7回農業塾 大原先生の講義

「先人はどのように農業が持続的であることの工夫をしてきたか」

1 西欧の農業

- ・西欧の気候の特徴は、半乾燥地帯のために雨が少なく、植物の繁茂も少ない。
- ・そのため、水分が少なくても育つ、麦類やオリーブなどの乾燥地帯でも生育できる作物が栽培される。
- ・水田作農業は、温暖でごく一部の水利の便利な河川の周辺しかできず、基本的に畑作農業中心である。

2 アジアの農業

- ・アジアの気候は、基本的にモンスーン気候で、多雨多湿であり、植物がよく繁茂するので農耕は雑草との戦いでもある。
- ・このため、豊富な水を利用した稲作農業が発達し、人工的に山から水を引く水田という、栽培方式が考えられ、作られてきた。
- ・水田という栽培方式は、灌漑水に含まれる栄養分や湛水による雑草防止効果もあり、毎年の連作が可能という特徴を持っている。そしてその高い生産力によって高い人口扶養力を保ち、世界で最も人口の多い地域を形成している。また同時に、棚田などの土地利用の工夫も含めて、農業の持続性の高い農業方式であった。

3 三圃式農業

- ・三圃式農業とは、ヨーロッパの畑作農業における輪作体系の一つである。農地を3分割し、夏作、冬作、休耕(放牧)の農地を作り、ローテーションをして作付けをする方式のことである。
- ・この方式では、休耕地(放牧)を設けることにより、休耕の間土地の回復を図り、地力維持を行って、その後の農業生産力の持続を目的としている。
- ・一作ごとに同じ作物は圃場を変え、次々にローテーションすることによって同じ場所での連作障害を咲け、全体としての生産力を維持するのである。
- ・水田作農業では、連作は普通であるが、畑作農業では基本的に連作が難しく、作物交替が不可欠であるが、このような工夫によって、農業の持続性を高めている。